

ぎかい



2017.4.17

小国町議会だより 第**132**号

歴史を見つめて

三界萬霊堂

表紙関連記事は
16ページ

主な内容

- 29年度予算 6対3で可決 2～3ページ
- 新事業などへ質問相次ぐ 4～7ページ
- 町政をただす一般質問 8～13ページ

一般会計 当初予算

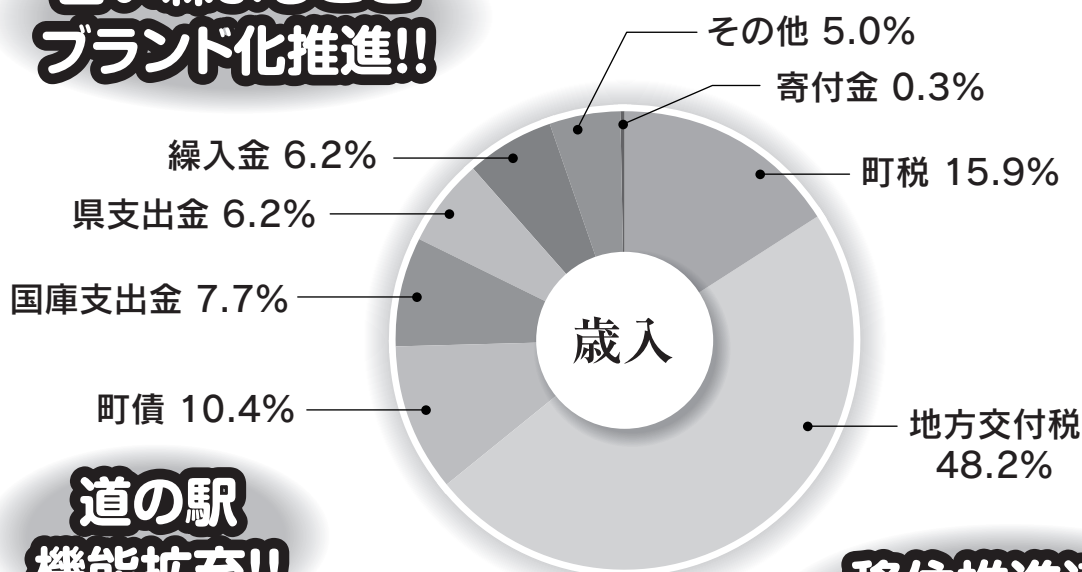
平成29年
3月定例会

3月8日(水)～17日(金)

平成29年度

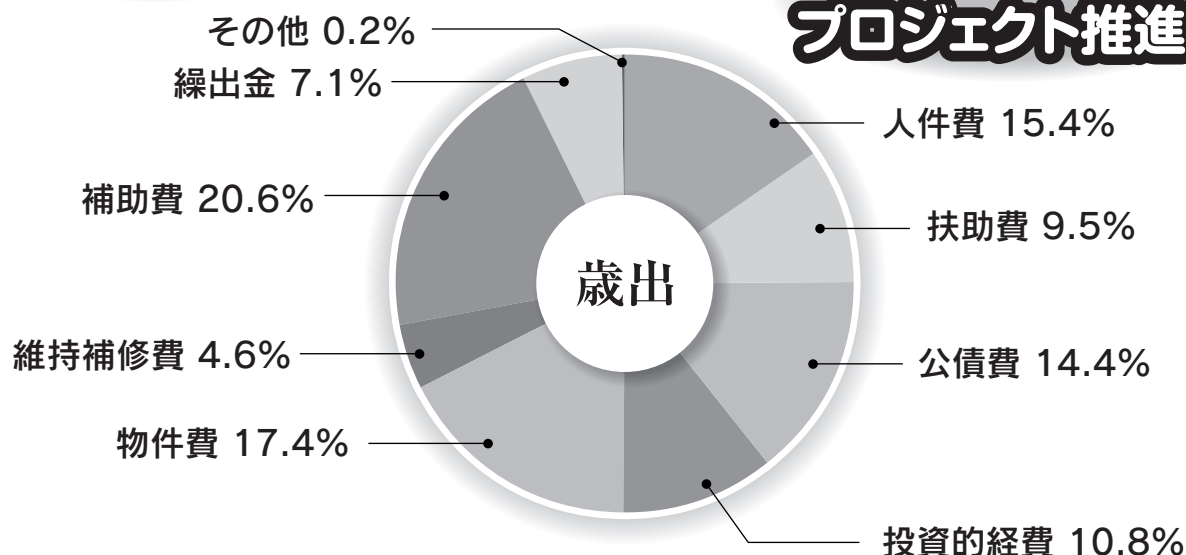
総額59億3400万円 可決
(前年度当初比より0.4%減)

**白い森まるごと
ブランド化推進!!**



子育て支援充実!!

**道の駅
機能拡充!!**



**移住推進連携
プロジェクト推進!!**

少数意見留保が出された

意見の要旨

平成29年度の各会計予算について審議した結果、次の事項について賛成できない事を報告する。

予算づくりの過程において町民への福祉向上にどう繋げて行くか。特に新規事業においては、その事業の目的、計画書、予算内訳を議会に提示するのが当然であり、まったく説明が無いという事は議会軽視も甚だしいと指摘せざるを得ない。

事前に住民の要望とその効果、必要性の説明が無かった事が、審査への深まりを欠く事になる。今後は、事前に必要性の説明をすることを求める。

- 1、□ 病後児保育に必要な継続2300万については、ニーズと費用の関係を詳細に調査提案すべきであり時期尚早である。
- 2、□ 「道の駅隣接遊休地を活用し、町内産品等の情報発信や直売所等の経営戦略を検討している指定管理者に支援する」としての300万円の支援行為は、管理料金を指定期間内で指定料のうわずみとも取れる提案であり、指定管理契約に反していると考える。
- 3、□ 人手不足のため療食業務を外部へ委託するとの提案だが、待遇改善等を行なわないと若者の定着、町内の活気、農業者・商業者との好ましい関係が崩れる大きな要因となる。
- 4、□ 人工透析患者送迎3000万余りの予算は、財源を一般財源からの支出である。
最小の経費で最大の効果を上げるという観点からも、町立病院での人工透析治療実施の道を探りながらの送迎事業でなければならない。送迎だけでは、透析問題は解決しない。
- 5、「白い森まるごとブランド構想事業」に関しては、重要な計画にも関わらず、理念だけで具体性に欠ける。

予算審査特別委員 米野 貞雄

賛成者 石山久美子

賛成者 小関 和好

請 願

請願者	件 名	紹介議員
小国町大字五味沢338 透析患者の命を守る会 会長 斎藤広美	小国町議会に人工透析治療に関する調査特別委員会を設置して真相解明を求める請願	石山 久美子

賛成3 反対6 不採択

賛成議員	米野貞雄・小関和好・石山久美子
反対議員	伊藤重廣・安部春美・小林嘉・遠藤和彦・間宮尚江・今 康成

臨時議会

2月20日(月)

**補正予算
除雪関連費用等
可決**

平成29年度 予算審査特別委員会

総務企画課

Q 「白い森ブランド構想」の具体的な取組みについて。

A 農業分野から他の分野へどう広げ発信していくかに取り組む。「白い森ブランド戦略担当」部署を設置し推進していく。

Q 「水源の郷交流広場」看板作成業務の設置場所と予算額は。

A 国道からの入り口がわかりづらいとの声があるので、その付近2カ所に設置を計画している。予算額は21万円である。

町民税務課

Q 空家対策協議会の設置は、平成28年にも聞いたが変更になったという事か。

A 空家対策措置法に基づき協議会の設置を目指す。

産業振興課

指し調査を行う場合、特定財源が見込める事が判明した事から、平成29年度から調査を実施する事とし、今年度は、特定空家を判断する調査基準や進め方を検討していく。

Q 「道の駅地域連携強化事業」の内容は。

A 「道の駅」に隣接する土地を指定管理者が借りて「直売所機能」の実証や誘客を行うという事で、その事業に対して300万を支援するものである。

Q 「道の駅機能拡充事業」とは。

A 県の補助を受け「道の駅」のトイレの便器の交換や内装工事、機能充実により女性や子供の利用しやすいトイレに改修を行うものである。

地域整備課

Q 「地域企業人材マッチング事業」とは。

A 町内出身の新卒就業者への祝い金と、町外出身の新卒従業員を採用した会社に対して支援を行う事業である。

Q 羽越水害50周年事業に関連してシンポジウムを含め各種イベントが予定されているが、事業負担金予算10万円に間に合うのか。

A 小国町を含め関係する4自治体と電力会社、各10万円を負担し記念事業の予算は、90万円となっている。個々のイベントの費用は、国土交通省が負担し、実行委員会では、フォトコンテストや絵画コンクールの賞品代、普及啓発用のグッズ等を負担する。



羽越水害50周年事業が行なわれる

教育委員会

Q 学校・家庭・地域の連携協働推進事業について詳しく聞きたい。

A これまで取り組んできた「白い森学習支援センター」「ミニニ



外部委託される療食

ティースクール」「学校支援地域本部」「放課後こども教室」などそれぞれの事業について、地域全体で子供の健全育成を推進するという目的は一緒である事、関わって下さる方

が重複しているという現状から統括コーディネートーターを配置し、連携強化することによって、より効率的かつ効果的な事業展開を図るものである。財源については、国庫補助金等が充当される。

Q 教員を目指す学生に対する奨学金貸し付けや、給付型の移住者向け小国高校修学助成の周知方法はどうするのか。移住者向けの修学助成は、これを以て移住を進めていくのか。

A 貸付奨学金については、教員を目指す「大学生」を対象としている。周知方法は、検討していく。

移住者向けの助成は、町の移住促進プロジェクトの中の計画であり、プロジェクト担当の部署が窓口になって進めていく。

健康福祉課

町立病院

Q 病後児保育施設整備事業の必要性はあるのか、町民の要望等、調査がもっと必要ではないのか。

A 子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査を実施した。核家族やひとり親世帯が増加していることから、子育てと仕事の両立を支援することを目的に実施したい。

Q 人工透析患者送迎事業に3千13万4千円が計上されたが具体的な金額について。

A 賃金6百43万8千円、消耗品13万円、燃料費2百90万6千円、通信費14万3千円、保険料9万2千円、委託料1千6百53万4千円、車リース料3百89万1千円である。すべて一般財源である。

Q 療食事業を民間へ委託する具体的な理由、食材購入費用が町内から町外へ流れ、町内経済に影響があるのではないのか。

A 療食を担当する調理員の円滑な確保ができる

なくなりつつあるため委託するものである。食材購入費は年間約3千万円で、そのうち町内商店等から2千万円相当の材料を購入している。委託先には食材購入量の15%程度を町内商店から確保することを希望しているが影響は否めない。



予算審査の様子

総括質疑

病院療食の外部委託による町内業者への影響は

間宮尚江議員

間宮 有事ある際等も含め、療食は患者さんには各個人に適した献立が必要であり、学校給食のように均一の献立で賄えるものではないと理解はできる。

しかし、商業業者にとっては、本町の人口減、消費減、も含め一定の通年利益が無くなるという点での今後の不安を町長はどうお考えか、伺いたい。

町長 現在、調理員の確保が厳しいことから、専門業者に給食部門を委託して安定的な提供を確保していくことが、病院給食では最優先である。

一ロメ

総括質疑とは、全議案を一括して質疑を行う方法です。質疑とは、町長から提案された議案に対し、賛否の態度決定が可能になるよう、疑問や不明確な点を問う発言をいいます。

白い森まるごとブランド構想推進事業について

小林 嘉議員

小林 この事業は、町民との協働によって成果が見えて来るものと思うが、改めて、政策の遂行にあたる町長自らの決意を聞きたい。

町長 ブランド力のある小国町の資源にさらに磨きをかけ、内外に発信していく事業である。意匠登録した「白い森」の商標により統一したブランド化により価値

を高め、総合的にマネジメントしながら、観光振興につなげていくという目標がある。

小林 これまでもブランド化の取り組みは行ってきたが、年次の区切りや役場組織の都合でバラバラな取り組みに終わっている。組織横断的な取り組みによる継続的な推進が必要である。



町内納入業者への影響が懸念される



ブランド化推進で観光振興へ

町長 役場内に新たに「白い森ブランド戦略担当」を設置し対応する。

昨年設立した「小国まるごと農商工ネットワーク協議会」や「小国町六次産業化推進構想」をきっちり機能させることが、重要なポイントである。

それぞれの部署の成果をしっかりとフォローすることも、大切なマ

ネジメントの一つとしていきたい。

小林 今議会で「わかり易い予算書」作成が成立する。町民との情報の共有化に活用すると共に、「白い森ガイドブック」を、小国町の「素晴らしい魅力の気づき」に活用し、目指すべき「白い森まるごとブランド化」に活用すべきと思う。

町長 「わかり易い予

算書」により、具体的な施策や予算の中身に、関心を持っていただき、町民懇談会等で多くの意見が出ることを期待している。「白い森ガイドブック」は、あれを一つの目標にし、将来のあるべきイメージを町民と共に描いていくために有効に活用していきたい。



梅花皮荘の老朽化も進んでいる



交流人口増に向け整備が計画される

観光推進施策で梅花皮荘の機能向上をどう図る 今 康成議員

今 「白い森まるごとブランド構想」に取り組み観光交流の推進を図る、としている。

昨年9月の所信表明では梅花皮荘の機能向上に努めるとあるが、29年度予算案の中で位置づけはどうか。

いるのか。

町長 梅花皮荘整備については中長期的な課題だ。

施設は指定管理者制度で運営している。

予算の支出としては、指定管理料が当たる。

今 新規就農や起業創

業に対する支援の予算がある。

担い手不足は各業種で問題化しているなか、建築業の技能者育成に対する予算はあるか。

町長 住宅リフォーム

の総合支援事業の補助、木材利用促進事業の予算を計上している。間接的にでも担い手育成につなげていきたい。

予算審査特別委員会報告書

3月8日予算審査特別委員会に付託された、平成29年度小国町各会計予算案については、議長を除く全議員を委員とし、各課予算質疑及び総括質疑を行い、細部にわたり審査にあたってきた。その結果について報告する。

本予算は、総額11億9,691万4千円、前年度比2.6%の増額。一般会計では59億3,400万円、0.4%の減額となっている。

地域創生総合戦略の核を成す「白い森まるごとブランド構想」始動元年の当初予算と位置づけられる。人口減少下の本町にあつて、町民福祉の増進を図るための予算としては、町民総意による町づくりを進めようとする意欲的な第一歩の踏み出しとして評価すると共に、中長期の明確な目標設定の下に施策が継続的に展開されることを強く望むものである。

1 平成28年9月定例会の決算審査特別委員会報告書で、町民目線での各課連携の仕組みの構築を提言したが、新設される「協働をコーディネートする部署」が、真に官民協働の推進役として機能し、町民に開かれた部署となるよう期待する。また、町民連携の上で「わかりやすい予算書」の作成に早期に着手されたことについて評価する。

2 病院事業会計及び老人保健施設事業会計における療養業務の外部委託については、有事対応等その必要性は認めるが町内関係業態への影響が懸念される。でき得る限りの話し合いと検討を尽くし、影響の最小化を図られるよう努力されたい。

以上の意見を付し、原案のとおり議決すべきものと決しましたので、会議規則第41条の規定により報告いたします。

平成29年3月17日

予算特別委員会委員長 遠藤 和彦

小国町議長 高野 健人 殿

転出超過年間約80名 歯止め対策早急に



こばやし よしみ
小林 嘉 議員

転出超過の対策は

小林 人口は8千人を割って減少の一途をたどり、近年の17年間の統計では1377人の転出超過（社会減）で、年間平均81人の転出超過である。これは町の活力低下に大きく影響している。この実態をどのように分析し、対策をとっているのか。

「協働と交流」で抑制

町長 「小国町人口ビジョン」を策定するとともに、「地域創生総合戦略」を構築し、協働と交流による「小国創生」により、人口流出の抑制を図り、2040年までに「協働人口」を2000人規模まで確保する方向性を打ち出している。

高校生の町内就職は

小林 小国町出身高校生

の町外就職、町内就職の実態を聞きたい。

小国町内へ就職は10名

町長 昨年12月時点の調査では、本町出身の高校生徒数は79名で、うち就職希望者は25名、このうち町内企業内定は10名である。小国高校生の平成28年度卒業生は44名で、2月現在の進路状況は、進学が21名、就職が23名、うち町内企業内定者は9名とのこと。

転入者増加対策を聞く

小林 転出者超過の歯止め対策とともに、転入者を増やす対策が求められるが、どのように対応しているのか。

移住推進の連携組織で

町長 転出者超過策は雇

用の場の創出を重点に置き、定住政策の取り組みが必須である。従って子育て支援、教育、住宅、社会基盤整備、福祉、医療、雇用、観光交流、地域づくりなど、定住環境を充実する施策を展開している。一方、転入者増加対策は、田園回帰の受け皿づくりの視点で、「若い世代を中心とした移住交流の促進と協働型交流から移住・定住を促進する仕組みづくり」に取組み、U・Jターン促進を展開する。

具体的には「ふるさと同窓会補助制度」「お試し滞在補助制度」の創設、緑のふるさと協力隊や地域おこし協力隊の配置、県外大学生の「域学連携事業」の実施や、県や置賜他市町と連携した首都圏での移住フェアへの参加など行っている。

加えて、新年度は「移

住推進連携プロジェクト」の組織体制を整備による窓口調整機能確保で、各分野にわたる取り組みを展開する。

小国自慢の郷土愛醸成

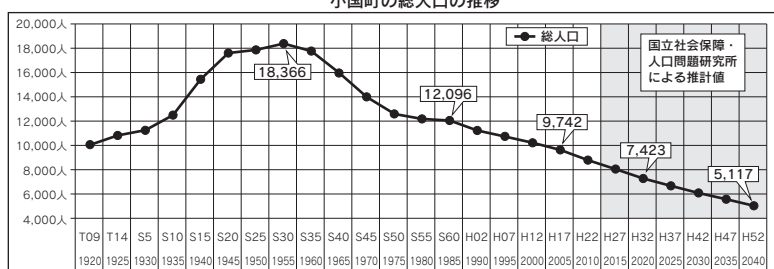
小林 近年になく求人数の多い状況下、転出超過を食い止めるために、小国町の魅力を自慢しあい、それを他に発信していく郷土愛を醸成する取り組みが必要だと思う。

「小国人」の育成教育

町長 「小中高一貫教育」の柱のひとつ「白い森学習」で、小中学校での「地域学習」や「キャリア教育」、小国高校での「地域文化学」など、ふるさと小国の良さを学び、ふるさとを愛し、ふるさに貢献しようとする「小国人」を育成することを

目指したカリキュラムを展開している。
今後とも、子供たちが誇りを持てる教育振興に努め、「白い森まるごとブランド構想」に基づき、積極的に地域情報を発信していく。

小国町の総人口の推移



資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（H25・3・27公表）
国立社会保障・人口問題研究所



人工透析患者送迎事業について

いしやま くみ こ 議員
石山久美子

人工透析患者送迎事業のこれまでの取組は

石山 平成28年12月5日透析患者送迎事業が開始された。3カ月の取組について問う。

町長 送迎事業では町内人工透析患者24名から利用に係る希望調査を行った。現在、8人乗りワゴン車3台・車いす対応の福祉車両1台の計4台を運行している。運転業務を(株)小国タクシーに委託している。また、送迎中の緊急連絡等に対応するため、送迎補助員9名を雇用し、各車両に1名同乗させている。

現在の送迎事業利用者は15名、自宅から県内及び県外の5つの医療機関まで送迎を行っている。治療時間の延長や入院等による乗車変更が予想していた以上の頻度で発生しており、小国タクシー

―と送迎補助員と連絡調整を行っている。

見えてきた課題は

石山 雪や吹雪、道路の凍結など車の運転では厳しい条件での送迎事業であったと思う。3カ月を経過して見えてきた課題を問う。

町長 平成29年1月30日送迎事業利用者と意見交換会を行った。通院の負担が軽減されたとの好評をいただいた。課題については、利用者・送迎補助員・病院との連絡調整を密にしており課題としての事案はない。

石山 医療機関に到着したが透析の時間に1時間半以上も待ち時間があり、受付待合室で時間をつぶしているとの現状であった。もっと配慮した運行を行えるのではないか。

送迎補助員は連絡員なのか、具体的な業務は

石山 送迎車に同乗する送迎補助員の具体的な業務について問う。

町長 連絡員業務として歩行補助や乗降時の安全チェック等で患者の状態について気を配っている。

石山 乗車中に体調の急変などはないか、患者に寄り添い対応すべき補助員と思うがいかがか。

町長 介護補助員ではなく、連絡員としての業務と考えている。

なぜ直接雇用としたのか

石山 臨時職員等の募集はこれまでは、広報に掲載し公募してきたが、今回は直接雇用であった。理由を問う。

健康福祉課長 補正予算が可決し、事業実施まで時間がなく、関係機関からの情報をもとに対応した。

送迎事業の安全性は

石山 平成29年2月24日沼沢トンネルで事故が発生し、3時間交通止めになった。安全面での課題があるのではないか。ほかにも事案が発生したのではないか。

町長 患者送迎後に物損事故が1件、乗車時ドア

に手を挟む事例があった。交通止めの状況について詳しくは承知していない。

健康福祉課長 平成29年2月24日沼沢トンネルでの交通事故の影響を受け3時間の通行止めがあった。透析治療後で帰宅時の時間であった。体調にも異常がなく、無事送り届けた。

石山 安全安心な運行とは言えない事案が発生した。緊急事態での対応に不安が残る。



命を乗せての送迎

病後児保育整備事業について



こ せき かず よし
小 関 和 好 議員

計画時点での
説明があるべき

小関 病後児保育整備事業として29年度予算に

2384万円が計上されている。総務厚生常任委員会でも関心を持ち2ヶ所視察に行っている。報告書には、実現には課題が多く、需要調査を含め検討するべきと報告している。

その報告から3カ月後の3月議会で調査も説明も無く2384万円の予算措置は、納得のいくものではない。

何故、計画段階での説明がなされなかったか、もしくは、事前の説明が必要でないと考えた理由を聞きたい。

昨年9月の所信表明で表明している

町長 平成26年度に就学前児童がいる保護者334人を対象に子育て

支援に関するアンケートを行っている。その中で病児・病後児保育についての利用意向について聞いたところ「利用したい」が47%「利用したいと思わない」が49%とほぼ同率という結果であった。病後に長期休暇の取得が困難な保護者からのニーズが高まっているので支援に取り組む事とした。

実施場所は健康管理センターの森のホールの一部を改修する予定だ。対象は、満1歳から小学校入学前の児童とし月曜から金曜までの午前8時から午後6時とし1日2名の受入れを考えている。

職員に関しては、保育士1名と看護師1名が必要だが保育士はおぐに保育園から、看護師は有資格者で現在勤務していない方に登録をしていただき

申し込みがあった時に対応する。維持管理費は、年間50人の利用と仮定

して100万円程度を見込んでいる。財源としては国・県より3分の1ずつの支援を受ける予定である。

「何故、説明が無かったか。」との質問であるが昨年9月の定例会での所信表明で「子育て支援として病児・病後児保育の実施に向けた検討を進め子育て環境の充実を図っていく」と言っている。

一般質問に対しても「先例を参考に整理を進め、なるべく早い時期に実現できるように取り組んでいく」としている。それを経てのこの度の事業予算である。

計画については、議会のチェックが必要だ

小関 議員は、提案された事業が、はたして町民の利益に繋がるかチェックするという役割を担っている。今回の予算に



河北町での病後児保育の視察

はあるのか。

健康福祉課長 起案書はない。計画書も無いが、どの様にしているかというまとめた物はある。

副町長 町の予算は、町長の指示により各担当が予算を組み、調整されて予算書が出来る。

議会で承認されたのちに実施計画に入るといいう事になる。

は町長の思いを感じる新規事業がたくさんあるが、いずれも、事前に議会に対する説明がなされていない。

新規事業には、「起案書」「計画書」「予算書」が必要だと考える。いきなり予算書、しかも総額を出されてもチェックのしようがない。このような新規事業の提案の仕方は、

正常とは言えない。「起案書」「計画書」「予算書」



●「羽越水害から50年」防災意識・事業について ●米坂線死守について

ま みや ひさ え
間宮尚江 議員

羽越水害から

50年だが

間宮 昭和42年8月28日、

本町に壊滅的被害を与え、尊い2名の命が失われてから50年。減災への意識高揚、防災教育の展開、節目の50年にどのような取り組みを考えているのか。10年前の40年事業では、荒川流域の治水巡り等もあったが、その後風化されてないか。

町長 羽越水害から、50

年。死者2名、一夜にして未曾有の大災害であった。甚大被害に国・県から絶大な支援があり、荒川は翌年一級河川に格上げされ、国直轄の事業地域となり、飯豊山系砂防事務所が本町に開設された。荒川流域の関係自治体で防災促進運動を展開しており、小国町長が会長である。

更に平成20年には国直轄の横川ダムが完成し

て本町の治水・利水対策は一層強化されたものである。

羽越水害の被害や記憶を確認し、後世に伝え、防災意識の向上を進めるべく記念事業を新年度に実施していくこととしている。

今年は、50年という節目に総合防災事業を小国小学校を主会場に、地域の子どもからお年寄りまで多くの方々の参加を呼び掛けて行う予定である。

また荒川流域自治体の主催による記念事業が予定されており、荒川流域治水巡りもある。

本町でも防災ラジオ全戸配布、避難所表示看板設置計画をしており、羽越水害からの環境変化を捉え総合的施策を展開していくつもりだ。

教育長 本町独自に副読

本を作成し羽越被害の状況や開発総合センター前の石碑の写真等が掲載さ

れ、風化させないよう努

めている。中学校との渡り廊下を使用し合同避難訓練も実施しており、防災意識高揚には学校現場での教育が非常に重大であると認識している。

米坂線死守

間宮 米坂線は昨年開通

80周年でありイベント開催もあった。通学者にとって死守すべき路線であるが今後の施策はあるのか。

また、昭和39年新潟地震の際、復興の一助として「鐵道新橋明四十」と記された跨線橋の橋脚が、アスモ東側の駐車場にガス灯2本として寄贈されている。貴重なものであり、文化財指定、地域学に活用して、駅からの動線として中央商店街へ誘客できないか。

町長 人々の移動手段が

車社会になってきていること、人口減も含め利用

客が減少している。「米坂

線整備期成同盟会」会長は小国町長であり、今後は新幹線への接続が円滑になるようJR東日本に働き掛けること、荒川、横川沿いの渓谷や田園風景を走っていることから

今後も観光面での利活用に取り組んでいきたい。また、アスモ設置のガス灯も歴史資源として米坂線を利用した観光振興を戦略的に展開すること

を戦格的に展開すること

には重要である。

米坂線は、町民の足として欠かせない公共交通機関であるので、同盟会と一体となった運動を展開していきたい。

教育長 アスモ東側駐車

場ガス灯に関しては、貴重なものであるということから、今後、文化財調査委員の方々と、調査・検討していきたい。



米坂線 冬の鉄橋



アスモ東側駐車場のガス灯

町立病院での透析治療は可能だった



よねのさだお
米野貞雄 議員

「山大の支援をいただけるなら進めていきたい」
この発言は透析
合意の証

米野 町立病院は山大学部からの全面的な支援を得て運営しているものであり、その指導のもとに自治体病院として役割を担っていかねばならない。こうした基本的な考え方に立って検証したと山大医学部との良好な関係を強調している。情報公開で開示された平成28年2月5日の透析に関する協議資料での阿部病院長の発言は「大学の支援を受けられるということをお聞きしたので進めていきたい」と記録されている。ここで言っている大学の支援とは私は医師派遣のことだと思う。「進めていきたい」というのは、透析開始について小国町と山形大学が合

意していたという何よりの証拠でないか。

町長 昔のことなので担当から説明します。

包括ケア推進監 昨年2月5日の段階では、まず透析を実施するにあたっての医師は小国病院で確保する。その医師が透析の専門医でなければ山大医学部で研修をする。そしてその医師が大丈夫だという段階になるまで支援を続けます。という話として双方で理解をしている。12月、1月と研修をして、2月、3月は小国病院で透析をしつつその段階では、大学から医師を派遣しますというお話があった。2月、3月に小国病院で研修した先生が大学の指導のもとで実施するというお話があったので病院長の発言があったと思う。ただ4月以降については大学側の

事情があったことは間違いないことなのでご理解をいただきたい。

米野 4月以降についてはわからないというニュアンスだが病院長の「大学の支援をいただけるから進めていきたい」の発言は、小国町と山大医学部が今年二月から透析をやりましょう。という合意の証拠ではないか。

町長 いま、推進監から話があったが、合意ということではなく山形大学から、そういう支援を受けられるという話として今の答弁を理解した。

米野 合意でないなら、何なんだ。素直に受けとめれば合意である。

「疑問」「疑念」「欠礼」残ったまま

米野 これまで全面的に支援を受けていた山大医



学部になぜ相談に行かなかったのか。その山大医学部、置賜総合病院、県の健康福祉部に中止の理由と経過を丁寧に説明し、礼を尽くすことが最低限の礼儀ではないか。費用も時間もかけて多くの人の「悲願」と「支援」と「努力」を積み上げてきた事業にもかかわらず、短時間で白紙にもどしたことは、事実誤認では済

まされない重大な問題だと思う。十二月定例会では、透析実現にむけた請願を趣旨採択し、ほぼ全員が町立病院での透析には賛成だった。今は条件が整わないから中止もやむを得ないという内容である。しかし、実は実現の条件は整っていたのではないかとの疑念がますます膨らんでいる。



●高規格道路と町の振興について ●農業振興について ●商業振興について

いとう しげ ひろ
伊藤 重廣 議員

高規格道路と 町の振興について

伊藤 高規格道路のルートが提示されることになったが、課題は、その道路を使って、沿線市町村がいかに発展するかだと思ふ。
小国町発展のためにどのような振興計画があるのか。

町長 国土交通省から、第2回合同小委員会を28年度内に開催し、複数のルートを提示するとの話があった。
まちづくりの中で、域高規格道路をいかに活用するかとの視点で、第四次小国町総合計画や地域創生総合戦略等で道路整備によって、期待される各種の施策を打ち出している。整備ルートが明らかにになるのを踏まえて、今後の都市計画の在り方や整備沿線の土地利用計

画について検討していく。

伊藤 村上市の国道7号線から町役場まで現在は車で約30分である。これが時速80kmで走れる自動車専用道路が出来るのだから、半分の時間になるのではと思う。移住、買物や通院など、この道路を使って、町民の流出が始まる心配がある。早く対応すべきと思うが。

町長 本町2大事業所をはじめとする町内事業所においては、輸送コストの軽減、時間短縮といった非常に大きなメリットがある。観光や農産物のブランド化、6次産業化に高規格道路の効果を大きく期待するものである。

伊藤 観光客を何万人に伸ばしたいとか、6次産業化でどの位売り上げるとか、計画はないのか。産業が活発になるように、

高規格道路の効果が出来るようしっかりと対策をしてもらいたい。

町長 ブランド化・観光化を進めるために、担当部署に指示したところである。

農業振興について

伊藤 町は、農業は大事な基幹産業だと言ってきた。そんな中、県は農業所得1.3倍を提案している。小国の農産物の反当りの収穫量は置賜平均の8割である。耕作者不在地が出ないような町の対策は。

町長 小国町の地域経済は、経済指標的には、第二次・第三次産業が中心であり、第一次産業の生産額は少額であるが、農業が醸し出す農村の公益的機能に加え、食糧生産として極めて重要な産業であるので、これまでも支援を継続してきた。耕

作放棄地も大部増えてきているので、畜産を中心とした農業の再構築を考えている。引き続き町の社会経済を支える基盤産業として捉え、必要な支援を継続していく。

商業振興について

伊藤 商業・サービス業をどのように活性化させていくのか。

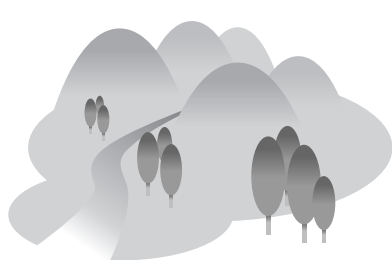
町長 本町の商業活動は商業統計調査によると、販売額は平成19年80億円、平成26年58億円と大幅な減少となっている。本町の町民所得は県内では上位である。一方「山形県買い物動向調査」によると、町民の購買の7割が町外で行われている。商業については各店舗が競争し、サービスの向上に努めていくことが消費者の利益ともなる。

白い森まるごとブランド構想等による町の魅力

づくりに取り組む。

伊藤 自動車整備工場・床屋等も町民生活を支えている。町は、その方々にも気配りをするべきだ。その業がきちつと営みを続けることが、町民の日々の暮らしに安心感を持たせると思う。喫緊の対策として町は、色々な補助金等を出しているのだから、その一部を共通商品券にすれば、町での購入3割を4割・5割にする事が出来るのではないか。

町長 お話を頂いた事は、今後の取り組みに活かしていきたい。



文教産建常任委員会

所管事務の現状説明を受け調査、現地視察を行った

期 日 平成29年2月28日(火)

◎教育委員会

調査内容

①教育委員の報酬改定について

首長と教育長、教育委員会の役割や責任が明確にされ、「総合教育会議」の設置など、社会環境の変化に対応した改正が行われた。

また、少子化による学校統合、学校区の広域化、学校運営協議会など新たなニーズが増加し、教育行政の役割が増大していることをふまえて小国町特別職報酬等審査会の審議の結果、年額235,000円に改定することとなった。

②学校給食の配送について

これまで叶水小中学校の給食を沖庭小学校で調理してきたが、4月からはすべての学校分を小国小学校で行うとの説明があった。

◎産業振興課

調査内容

①「おぐにまるごと」6次産業化推進戦略構想（案）について

豊かな自然環境が育む農産物をはじめ、自然や文化、観光などの地域資源を生かし、多様な関係者が連携し地域産業の振興のための戦略構想を示す説明を受けた。

②道の駅の整備方針について

各施設とも20年を経過し、快適とは言えない状況である。課題点を改善し、整備計画により道の駅の特徴付け、魅力付けを実施する。

③農業委員等の報酬（年額）について

農地利用適正化推進業務が必須となることから、農業委員会の役割が拡大している。

会 長 310,000円

会長代理 250,000円

委 員 235,000円に改定することとなった

農地利用最適化推進委員報酬（年額）基本額165,000円+（加算額）に改定する。

④きのこ産業づくり事業の進捗状況について

⑤小国町森林整備計画の概要について

◎現地視察

視 察 先 小国小坂町 「小国きんたけ工房」

期 日 平成29年2月28日(火)

出席委員 遠藤和彦、高野健人、小林嘉

◎地域整備課

期 日 平成29年3月15日(水)

調査内容

①一般国道113号 小国歩道整備事業

設計・用地測量説明を受ける。

②下水道事業における経営戦略の策定について

計画期間 平成29年度から平成38年度



期待される菌床生産

議会運営委員会

中央研修報告

期 日 平成29年2月14日(火)
 会 場 東京都千代田区一番町「全国町村議会議長会」
 研修テーマ 「最近の地方議会をめぐる動向について」
 講 師 全国町村議会議事調査部長 鈴木 毅

要望活動

新潟山形南部連絡道路(地域高規格道路)の建設促進について

① 県選出国會議員要望

期 日 平成29年2月14日(火)
 場 所 東京都千代田区永田町「国会事務所」
 要望先 山形県選出国會議員 6名

② 中央官庁要望

期 日 平成29年2月15日(水)
 場 所 東京都千代田区霞が関「財務省及び国土交通本省」
 要望先 財務大臣、国土交通大臣ほか道路関係幹部職員



出席委員 高野健人、安部春美、伊藤重廣、遠藤和彦、小林嘉

置賜地方町村議会議長会から 表彰されました

小国町議会議員 在職17年

高野 健人 議員

安部 春美 議員

期 日 平成29年2月16日



平成29年2月22日(水)に町民に開かれた議会活動の一環として小国町議会の主催で小国高校生を議員とした「高校生議会」を行いました。
 若人の意見を聞く貴重な催しとなりました。
 詳しくは、7月発行の議会だよりで特集を組む予定です。

高校生議会開催

議会活性化
特別委員会

おらも おぐに町民

町の人から
ちょっとひとこと

今号の表紙は、小国町指定文化財、彫刻第1号、光岳寺の善光寺式三尊像を紹介します。

阿弥陀如来と観音、勢至の両菩薩が白型の台座に佇立し、一つの舟形光背を背にする一光三尊像で、鎌倉時代の作と推定されます。安置されている光岳寺（小坂町）の鈴木桂樹住職にお話をうかがいました。



Q 初めにお寺や三尊像の歴史についてお聞きします。ずっと以前には、横根スキー場のグレンデ右側に所

在していたのが火災に見舞われ現在地に建立されたようです。当時は再建するまでの仮の建築であったと聞いています。

意外なことですが、この三尊像をご本尊さまとしていることで元々の宗門は現在と違っていたことが分かります。各宗門でご本尊さまは違いますが、当宗門において阿弥陀如来をご本尊としているというのは非常に珍しいと言えます。

Q 『小国の信仰』（平成6年発行）によると1456年に開創ですね。様々ないわれや記録があります。1562年とするものもあり。いずれにせよ、

当寺は新潟県村上市に本寺があり、楠木（正成）氏の系統に当たります。その為、寺の紋も楠木の家紋と同じ菊水紋です。

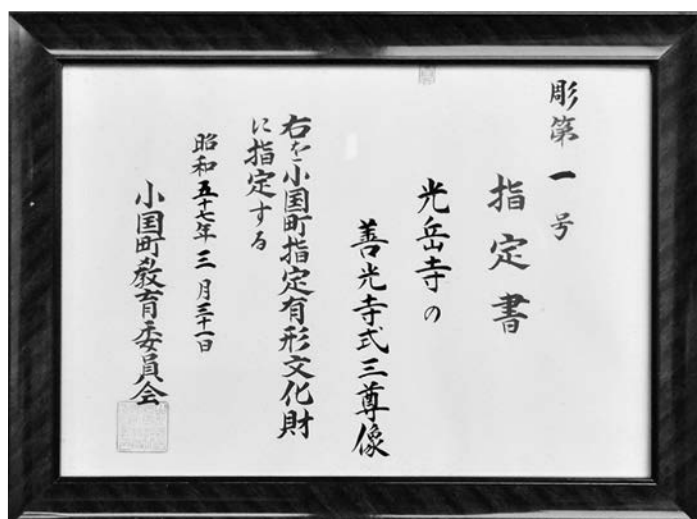
当寺を本寺とする寺は小国町内に8か寺、村上市の三面に1か寺在ります。

Q 火災でご本尊が焼失しなかったのは幸いでした。

離れて見るとわかりませんが、像は木の彫刻ではな

く銅造で重量も有り、持ち出すのも大変だったと思います。

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございます。



編集後記

「鉄橋へかかる

車窓のどろろきにはばからず呼ぶ

妻子がその名は」

ハンセン病歌人、明石海人が療養所へ向かう時の気持ちを詠んだ歌である。彼らの病ほど国の施策に翻弄され、また、失われた歳月の重みはないだろう。車窓は喜びや悲しみを言葉無く癒していく。

さて、春から通学する子ども達にはどんな車窓が心に刻まれていくのだろうか。繰り返される季節が、優しい風景であってほしいと願うばかりである。

米坂線で「心」運ぶ小さな旅を試みた。

間宮（記）

発行責任者

議長 高野 健人

議会広報特別委員会

委員長 小関 和好

副委員長 今 康成

委員 石山久美子

間宮 尚江

次は6月定例会です。傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局（62）2448